

「種子島研究」の探索とアーカイブ化による教材および教育方法の開発

出口英樹（総合教育機構・高等教育研究開発センター）、日高優介（「鹿児島の近現代」教育研究センター）
伊藤奈賀子（総合教育機構・高等教育研究開発センター）、鈴木優作（「鹿児島の近現代」教育研究センター）
福田祐真（工学部4年）、上川路亮太（法文学部2年）、三方麻由（農学部2年）

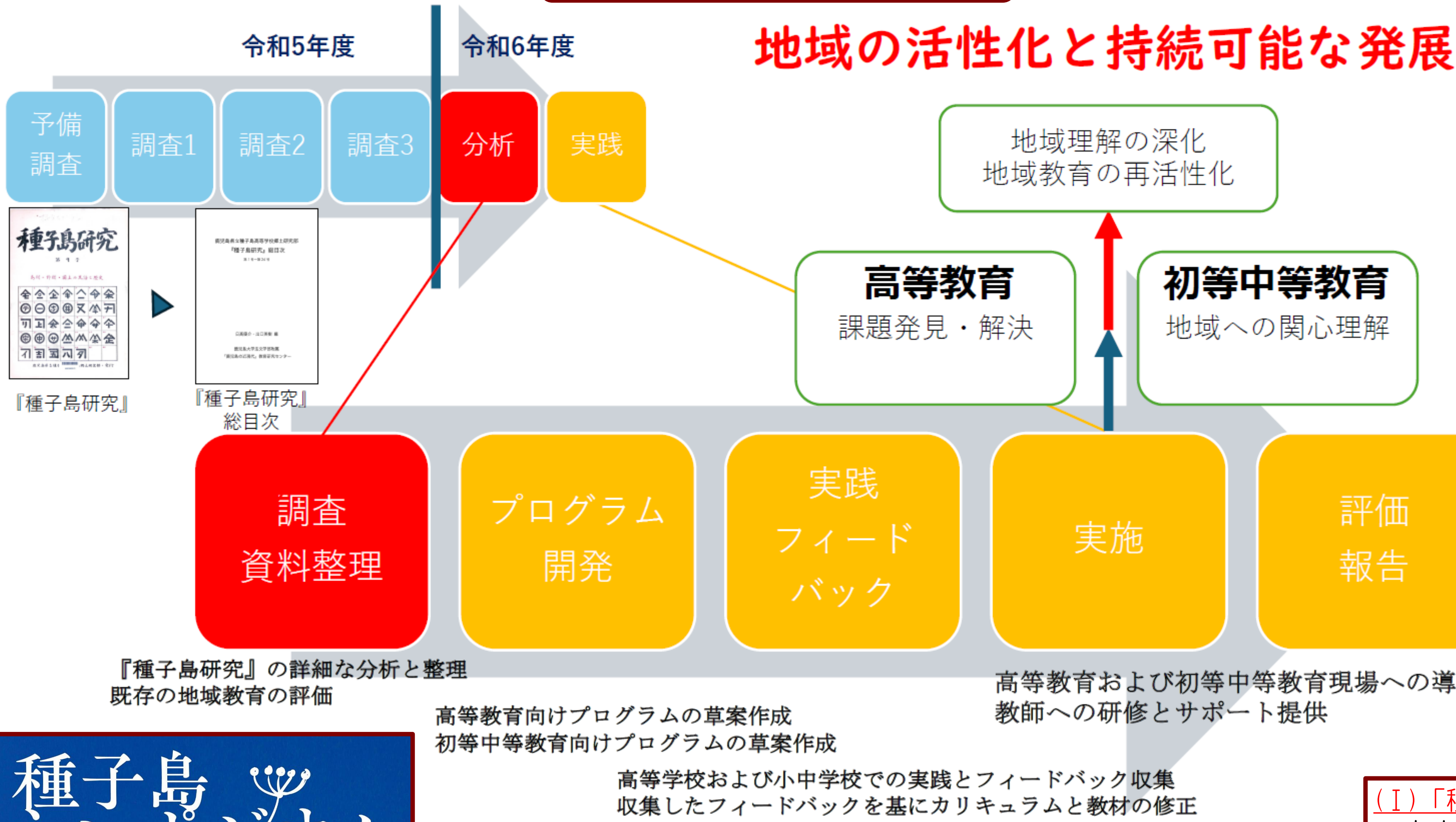
プロジェクトの目的

鹿児島を代表する民俗学者である下野敏見（1929年-2022年）は高校教員時代に県内各地に赴任し、生徒とともに郷土の歴史や文化に関して調査・研究を行っていた。鹿児島県立種子島高等学校（鹿児島県立種子島実業高等学校と合併前の旧種子島高校）在職中も同校に郷土研究部を作り、その活動の成果は『種子島研究』という冊子にまとめられた。

本プロジェクトは、昨年度の地域マネジメント事業の採択プロジェクト「『種子島研究』の探索および電子アーカイブ化とその教育的活用」の継続プロジェクトとして実施するものである。昨年度のプロジェクトでは、冊子「種子島研究」の現存状況、総目次の作成、執筆者への聞き取り調査を実施した。また、一部の冊子について電子スキャンを行った。

今年度は、地域の資源であるこの歴史・民俗資料等を初等・中等教育並びに高等教育に活用すること、端的には教材と教育手法を開発し実践することを目的とする。具体的には、鹿児島大学の学生が地域教育についての教育コンテンツを開発し、種子島高校や西之表市の小学校などで実践する。これは、研究成果の教育界・自治体への還元という「鹿児島の近現代」教育研究センターの設置目的に資するものである。

今年度プロジェクト全体像の概念図

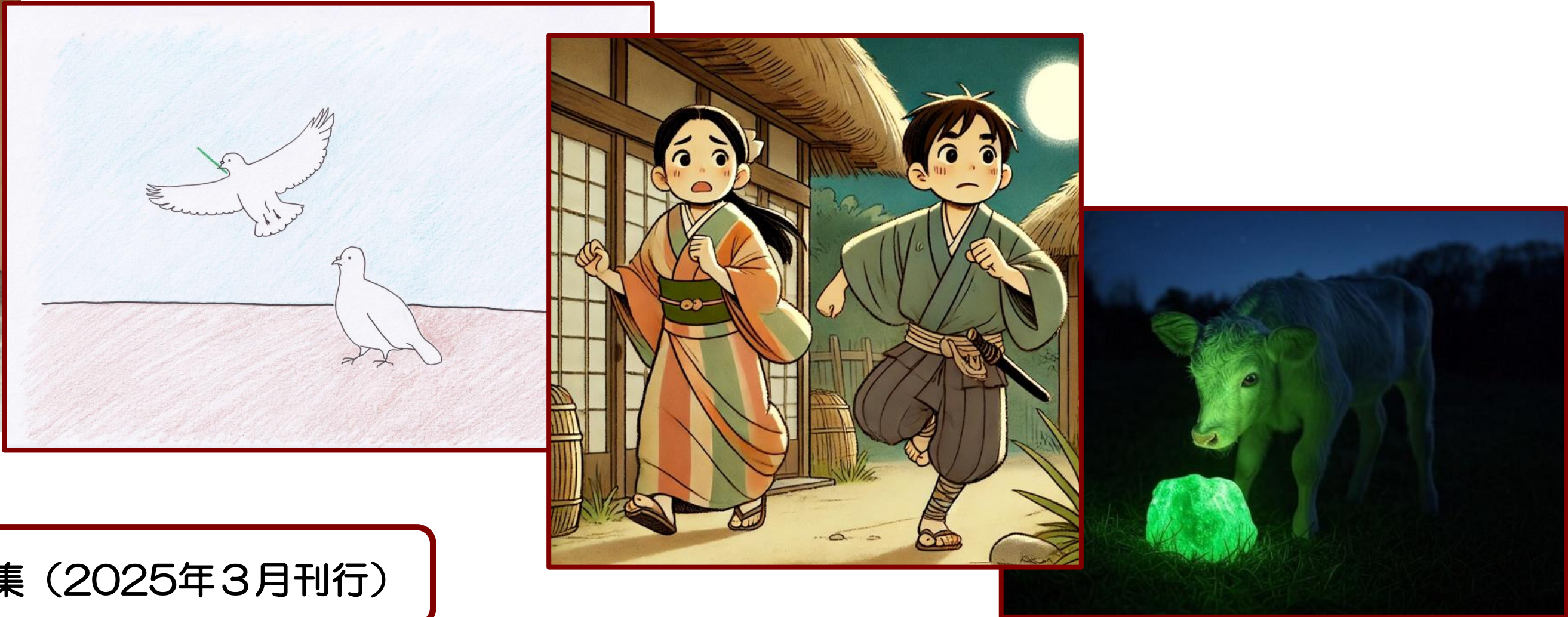


「種子島シンポジウム2025」（2025年3月1日）の様子

種子島でのフィールドワークの様子



サンプル・イラスト（「鳩ヶ瀬」「光る石」「安姫」）



「種子島研究」絵本化プロジェクトの概略図



絵本サンプル集（2025年3月刊行）



鹿児島大学「種子島研究」絵本化プロジェクト

鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

2024年度 地域マネジメント教育研究プロジェクト

「種子島研究」の探索とアーカイブ化による教材および教育方法の開発

発行日：2025年3月31日

発行所：鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター
〒890-0065 鹿児島県鹿児島市都元1-21-30
鹿児島大学 都元キャンパス 総合教育研究棟3階
TEL：099-285-7532

鹿児島大学「種子島研究」絵本化プロジェクト

鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

2024年度 地域マネジメント教育研究プロジェクト

「種子島研究」の探索とアーカイブ化による教材および教育方法の開発

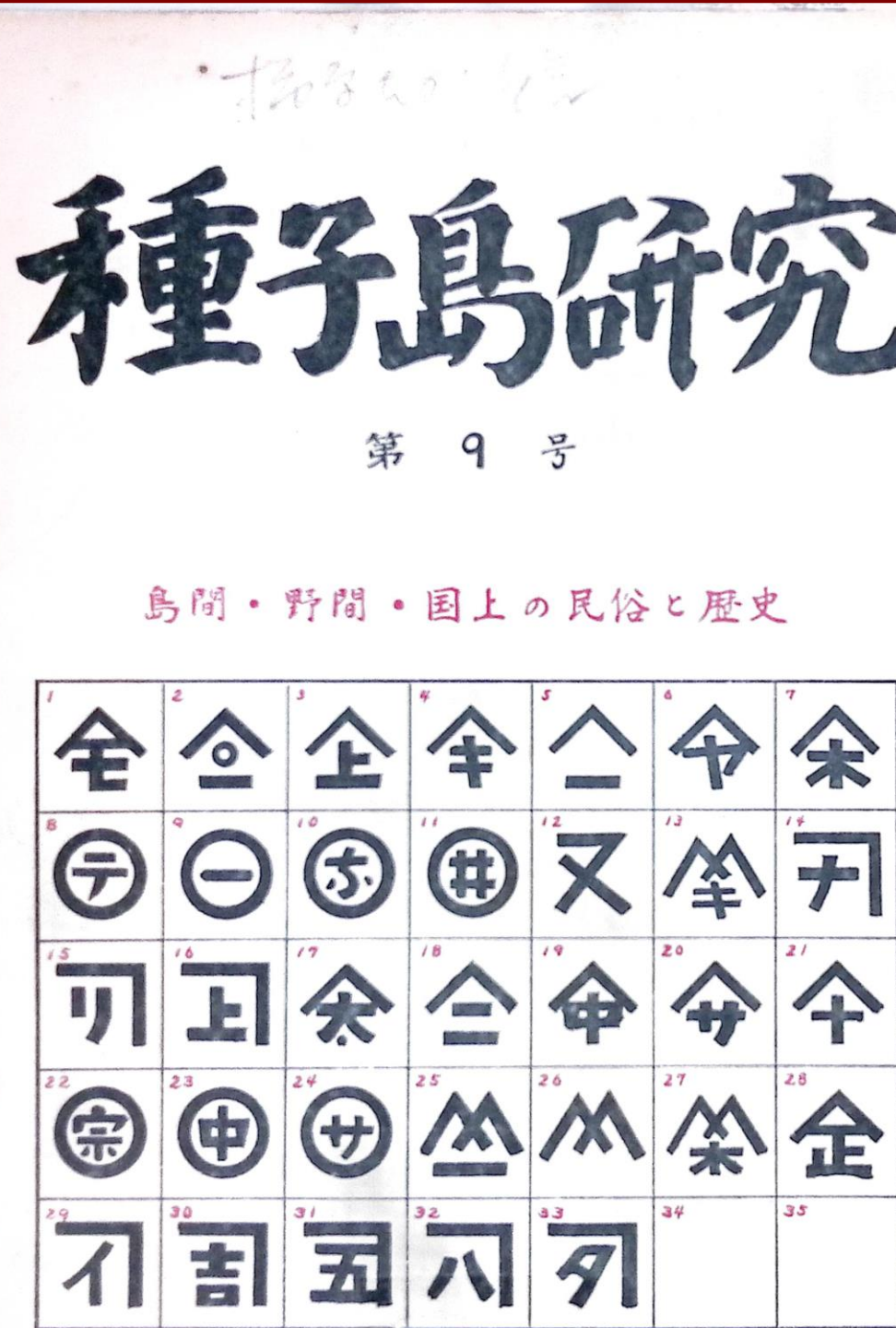
発行日：2025年3月31日

発行所：鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター
〒890-0065 鹿児島県鹿児島市都元1-21-30
鹿児島大学 都元キャンパス 総合教育研究棟3階
TEL：099-285-7532

謝辞

本プロジェクトの遂行に当たり、以下の方々をはじめ種子島の大変多くの皆様にご協力いただきました（肩書等はご協力いただいた当時のものです）。
西之表市長 八坂俊輔様、西之表市役所 田上美子様、荒河翼様、大河舞子様、種子島総合開発センター鉄砲館 館長 沖田純一郎様、鮫島斉様、西之表市 鮫島洋二郎様、日高（山下）美保子様、栗島輝文様
鹿児島県立種子島高等学校長 西中聞明弘様、教諭 中和田明宏様、西之表市立安納小学校 校長 高瀬信幸様、教頭 東和美様、中種子町立歴史民俗資料館 辺牟木正司様

心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



鹿児島県立種子島高等学校（旧）郷土研究部の部誌

『種子島研究』とは

鹿児島県立種子島高等学校（旧）郷土研究部の部誌

昭和38年（1963）11月20日 第1号発行
昭和62年（1987）3月15日 第24号発行
24年間で24冊刊行（別冊1 合併号1合）

種子島についての詳細な研究
→第1級の資料群
→専門家レベル



本プロジェクトは「種子島研究」に焦点をあて、①「種子島研究」についての追跡調査とアーカイブ化、②その成果を活用した高等教育における地域教育の方法論の検討と教材の開発、③以上を踏まえて郷土資料を用いた初等・中等教育における地域教育の方法論の検討と教材開発、この3点活動の柱としてきた。

本年度は其中でも特に「初等教育（＝小学校）における教材の開発」に重点を置き、本プロジェクトに興味のある3名の大学生とともに以下のような活動に取り組んだ。ここでいう教材とは絵本を想定しており、(Ⅰ)「種子島研究」から子どもたちが興味を持ちそうな昔話をいくつかピックアップし、(Ⅱ)それらの昔話に関して現地調査も踏まえて絵本として採り上げる題材を3つ程度セレクトし、(Ⅲ)セレクトした昔話を絵本化し可能であれば実際に小学校等で教材としての有効性を確認する。

(Ⅰ)「種子島研究」から子どもが興味を持ちそうな昔話をいくつかピックアップ

まずは「種子島研究」から絵本とするトピックを10本程度ピックアップした。その際、前年度のプロジェクトで作成した『「種子島研究」総目次』を活用した。また、そのピックアップした昔話について「種子島研究」本文で確認するため、同書が多く所蔵される鹿児島県立図書館（鹿児島市）において閲覧およびコピーの作業を実施した。

(Ⅱ)(Ⅰ)でピックアップした昔話に関して現地調査も踏まえて絵本の題材をセレクト

次に、(Ⅰ)でピックアップした昔話について現地調査を行い、絵本の題材として妥当なものを3本程度に絞る作業を行った。このため以下の3度のフィールドワークを実施した。
・2024年11月30日～12月2日：安納地区を中心に調査、安納小学校と打ち合わせ
・2025年2月13日～2月14日：フィールドワーク（2日間）
・2025年3月1日～2日：種子島シンポジウム（1日目）、フィールドワーク（2日目）

(Ⅲ)実際に絵本化し可能であれば小学校等で教材としての有効性を確認

最後に、ここまでの活動を踏まえ絵本化する昔話を確定し絵本化を試みた。ただし、実際は絵本化まではできず、物語を象徴化したイラストを作成し、それを見本として閲覧できるよう製本した。また、小学校等でのトライアルはできなかったが、上記3月1日の種子島訪問の際、「種子島シンポジウム2025」において本プロジェクトについて発表し、参加者からコメントを受け取ることはできた。